

春夏秋冬

所長 田沢文章

二回目の新人です

四月に木曾寮所長として赴任しました田沢です。昭和三十四年生まれで旧木曾福島町の出身です。高校卒業後に役場へ入り、その後木曾寮も運営する木曾広域連合に入りました。

公務員には人事異動があり、木曾寮は今まで人生経験豊かな課長が配属される部署でした。若輩者ですので、皆様より役不足と思われる様、精一杯頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。

実は木曾寮には五年前にも一年間お世話になりました。それまで現場の仕事の経験がなかったため、訳もわからないまま勉強、勉強で、一年間が過ぎてしまった、という感じでした。今回配属になり、当時の利

用者の方に再度会ったりして、懐かしいと感じると共に五年間という時間の長さも感じています。

五十歳で若い？

私が小さい頃に五十歳の人は完全におじさんでした。何を相談しても正しい事を教えてくれるけど、近寄りがたいこわい存在でもありました。

でも自分が今その年代になつてみると、おじさんには違いないけれど、まだまだ人生に悩み、いろいろな物事の判断に迷う自分がいる事に気がつきます。

ある人に誘われて最近、謡(うたい)を初めました。五月下旬に松本市で発表会があり五十名ほどの方が集まりました。その人達の中で私は一番若い人間でした。年を聞かれては、誰もが「若くていいね」と云ってくれました。

この年になつても若輩者でしかない場所もあるのだと、感じました。

育った環境

木曾寮の利用者の方からみても、私は息子であり孫です。現在の最長老は九十九歳ですから、その方から見れば孫です。また六十歳代の方から見れば息子です。

一概に木曾寮と云つても、中で生活されている方の年代はそんなにも幅があり、当然ですが、育った環境は大きく異なります。

最近では住居空間は個室でないというプライバシーもない劣悪な環境と云われてしまします。ところが、個室では寂しいと思われる方もいる事を木曾寮に勤務して知り驚きました。大家族、大人数の家族で育つと寂しいほうが落ちつかない事もあるのですね。

大海を知ろう

誰でもそうですが、知り得る情報は自分の周りだけのものではないありません。よく「井の中の蛙(かわず)大海を知らず」と云いますが、同じような事が云えるのだと反省をしています。

役場勤務の時に、旅費を出すからどこへでも行つて勉強をして来い、という制度がありました。ある年は東京、次の年には大阪へ行つたりして、こんなところがあるのだとびっくりしたのを覚えています。

広くいろいろなことを知る事で、柔軟な考え方をし、最終的には木曾郡住民のために少しでも役に立つ仕事ができるいいなと思つていきます。

